



卒業生(レジェンド)紹介

【ノウハウを吸収する天才】

麻布中・海城中・本郷中・栄東中

男子御三家、麻布中に合格した生徒です。彼は 5 年生の夏休みくらいから中学受験の勉強を始めたので、けして早いスタートとは言えませんでした。それでも最終的には御三家・麻生中に合格し、その天才ぶりを披露してくれた思い出深い生徒です。

そんな彼も当初は思うように勉強がうまくいかず、泣き崩れることがあったようです。けして塾では見せない、家だけの姿でした。どんな成功者でも、必ず苦勞と挫折があります。苦勞と挫折があるからこそ、成長するものなのです。

そんな彼のもっとも印象的なのは、最後の授業の時です。私は当時から(今でも)「直し用のノート」を提出させ、詳細にコメントを書いたり、それに付随する知識をノートに書いたり、「ノートのやり取り」を全受験生としていました。彼は上述の通り、天才肌の生徒でノートも詳細なものでなく、「いい感じで」省略・簡略化されたノートでした。しかし、最後の授業際、受け取ったノートが、いつもと全く違うノートでした。かなり細かくまとめており、いつもの「簡略化されたノート」ではなかったのです。不思議に思い、本人に聞いてみると「先生から最後に何か知識を引き出せると思って」、彼はこちらのノートのチェックの仕方、コメントの書き方を熟知したうえで、こちらから知識を引き出そうと意図的にいつもと違うノートを作ってきたのです。私は感動のあまり、涙腺が緩みましたが、精一杯、その思いに答えようと、彼が作ってきたノートに様々な関連する知識を教えました。

しかし、その時教えた知識は彼にとっては既知のものだったのです。すごい生徒だなと思いました。

かくして無事、麻布中に入学した彼は、中1の時には金髪になっていました。まさしく「麻布中らしい」生徒だったと言えます。

卒業後も何度か来てくれた際に、後輩の記述の添削をお願いしたこともありますが、私が添削するクオリティ、ノウハウ全く同じように指導していたのを見て、舌を巻きました。

自分が教えたノウハウを暗記するだけでなく、実践レベルで消化できる生徒はそうはいません。まさしく天才。そうは巡り合えない生徒です。